

～曇鸞章～

【原文】

本師曇鸞梁天子
常向鸞処菩薩礼
三蔵流支授浄教
焚焼仙経帰楽邦
天親菩薩論註解
報土因果顕誓願
往還廻向由他力
正定之因唯信心
惑染凡夫信心発
證知生死即涅槃
必至無量光明土
諸有衆生皆普化

本師曇鸞は梁の天子、
常に鸞の処に向にいて「菩薩」と礼したまえり。
三蔵流支、浄教を授けしかば、
仙経を焚焼して楽邦に帰したまいき。
天親菩薩の論を註解して、
「報土の因果は誓願なり」と顕したまう。
「往還の廻向は他力に由る、
正定之因は唯信心なり。
惑染の凡夫、信心を発しぬれば、
生死即ち涅槃なりと証知せしむ、
必ず無量光明土に至れば、
諸有の衆生、皆普く化す」といえり。

【意識】

曇鸞大師は徳高く、梁の国王が、常に、曇鸞大師のおいでになるところに向かつて菩薩と敬い礼拝していた方です。

三蔵（経・律・論）を伝えた菩提流支との出遇いによって、浄土の教えを授かり、それまで信じていた長生不死を説く仙経を焼き捨てて、浄土に帰入されました。

天親菩薩の『浄土論』を註釈し深いところを説いて、眞実報土に生まれる因も果も、すべてみ仏の誓願にもとづくとも明らかにされました。

浄土に生まれて往くのも、還りてこの世にはたらくのも、自力ではなくみ仏の本願力に由るのです。眞実に生きて往く道が定まるその原因は、まことの信心ひとつにあります。

惑いに染まった凡夫が、信心をおこせば、生死に執らわれた迷いや不安も、そのままさとりの内容となり、人生のかぎりなく深い意味を知らされます。必ず、量り知れない光の世界に生まれ往くのですから、あらゆる人々を、余すことなく感化していける、と説いています